

令和4年度花巻市石鳥谷地域協議会第2回会議 会議録

【日 時】 令和5年3月17日（金）午前10時～午前11時35分

【場 所】 花巻市役所石鳥谷総合支所 3階 大会議室

【出席者】 出席委員：11名

那須千賀委員、伊藤浩司委員、佐賀博委員、菅原紳委員、
藤館茂委員、菅原教雄委員、八重樫康治委員、大竹佐久子委員、
高橋公男委員、菅原康之委員、鎌田愛子委員

欠席委員：4名

佐藤匡亨委員、伊藤成子委員、晴山淳子委員、板垣武美委員

市側出席者：11名

説明者

岩間総合政策部長、冨澤秘書政策課長兼総合計画策定室長、
村田総合計画策定室次長、川村総合計画策定室主査

事務局（石鳥谷総合支所）

菅原総合支所長、佐藤地域振興課長、八重樫市民サービス課長
小原地域支援監、伊藤地域振興課長補佐、
熊谷地域づくり係主査、菅原地域づくり係主査

【審議事項】

第2次花巻市まちづくり総合計画の策定状況について

（1）令和4年度の取組状況について（報告）

（2）第2次花巻市まちづくり総合計画長期ビジョンの骨子（案）について（説明）
資料により説明、各委員が質問、意見を述べた。

【その他】

- ・菅原石鳥谷総合支所長から道の駅「石鳥谷」の施設再編の進捗状況について報告した。

【傍 聴】

会議を傍聴した者 0人

※ 会議での発言等は別紙顛末のとおり

※ 会議における配布資料は以下のとおり

資料

第2次花巻市まちづくり総合計画に関する資料

1 開会

(佐藤地域振興課長)

これより、令和4年度花巻市、石鳥谷地域協議会第2回会議を開会いたします。

初めに本日の会議について、佐藤匡亨委員、伊藤成子委員、晴山純子委員、板垣武美委員から出席できない旨の連絡がございましたのでお知らせいたします。

委員15名中11名の出席であり、半数以上の委員が出席しておりますので、花巻市地域自治区設置条例第9条第2項の規定により、会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。

2 挨拶

(菅原康之会長)

本日は何かとご多用中のところ、石鳥谷地域協議会の本年度第2回の会議にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

ご案内の通り、私たちの生活行動、仕事、地域活動などに大きな制約をもたらしております新型コロナウイルス感染症は既に3年が経過いたしました。現在も変異株によって全世界に拡大してございます。感染者は、6億7,000万を超えまして688万人が死亡、亡くなられているという状況にございます。日本国内でも、3,300万人の感染、7万3,000人の死亡が確認されております。また、岩手県内でも、23万3,000人を超えまして、610人の死亡が確認されているところでございます。

ワクチン接種が大幅に進みまして、感染者は減少傾向にあるわけでございます。いよいよ社会生活や経済活動が回復の兆しとなっているわけですので、この度厚生労働省では、マスク着用について、これまでは屋外は原則不要、屋内は原則着用ということでございましたが、3月13日にマスク着用は、個人の判断が基本ということに改められたところでございます。ただし、今後とも感染を広げないために、医療機関を受診する時、あるいは医療機関・高齢者施設を訪問する際、そして通勤ラッシュなどの混雑した電車・バスに乗車するときは、マスク着用を推奨するというところとしていただいております。また、本年5月以降、感染症法の位置付けも2類相当から季節性のインフルエンザと同じ5類に引き下げが決定されておりますが、ワクチン接種は重篤化を防ぐためにも、今後も継続される見通しでありまして、しばらくはウィズコロナとして3密対策を継続し、新生活様式を行うことが重要とされているところでございます。

花巻市内におきましては、この度30年前の平成5年に岩手県内第1号として指定を受けました道の駅「石鳥谷」が、これは長年の地域の念願でありましたが、この度施設の再編整備が急ピッチで進められておりまして、30周年を迎える本年7月に、全面リニューアルオープンのご予定でございます。地域の情報ステーションとして、道路情報や歴史文化、名産品、観光地などを紹介する案内版、あるいは資料館、物産販売コーナーなどが充実されまして、県内から多くの来場者がいらっしゃることを期待しているところでございます。

さて、本日は令和6年度から令和13年度までを計画期間とする第2次花巻市まちづくり総合計画について、昨年5月23日に当協議会に計画策定の基本方針案の諮問があり答申を行ってまいりました。本日は、そうした令和4年度の策定状況について、市当局からご報告・ご説明をいただくこととしてでございます。あらかじめ皆様方には資料配付されているところでございますが、どうぞよろしくご報告申し上げます。

3 審議

(菅原康之会長)

本日は、第2次花巻市まちづくり総合計画の策定状況について審議いたします。
出席者の紹介をお願いします。

(佐藤地域振興課長から市側出席者を紹介)

(佐藤地域振興課長)

本日の審議案件は、第2次花巻市まちづくり総合計画の策定状況についてです。この案件は花巻市地域自治区設置条例第8条第2項第2号の規定に該当する案件であり、本日は諮問答申という形ではなく、意見聴取でございます。市長が地域協議会委員の皆様から意見を伺うものであり、当協議会として統一した意思表示を求めるものではございません。

(菅原康之会長)

事務局から説明がありましたとおり、本件に関しましては委員からの意見を求められておりますので、活発なご審議をよろしくお願い申し上げます。

それでは、担当の総合政策部から第2次花巻市まちづくり総合計画の策定状況について、(1)令和4年度の取組状況について報告をお願いします。

(総合政策部から「(1)令和4年度の取組状況について」説明)

(菅原康之会長)

ありがとうございました。ただいまの報告について、質問等がございましたならば、挙手をお願いしたいと思います。

(八重樫康治委員)

この政策及び施策の評価について説明がございましたが、8ページの地域づくりについて、達成状況のうちランクDが80%ということで、コミュニティ会議を担っているものとして非常にショックだったのですが、これについてコメント見ますと、誰もが参加できる地域づくり活動を進める工夫が重要になるという形になってはいますが、この地域づくりの評価について、当局の方ではどのような評価をされているのかお伺いしたいと思います。

(村田総合計画策定室次長)

ただ今ご説明申し上げました抜粋版の資料の8ページ、こちらの帯グラフをご覧いただきたいと思います。ご質問を頂戴いたしました地域づくりの評価結果ですが、こちらの達成状況の数値については、令和3年度の時点での実績評価になってございます。地域づくり分野の設定されている成果指標を何点かご紹介いたしますと、例えば、振興センターの利用者数や、地域の総課題件数のうち地域で問題解決をした件数の割合などが指標になっておりますが、例えば振興センターの利用者数は、コロナ禍の影響で施設の利用制限があった時期にも重なり、成果指標が伸びなかったという事情もございまして、結果的に達成状況の指標という部分だけでは達成できなかった割合が多いというような形で分析をしているところでございますが、コロナ禍であってもできる範囲での活動

は各地域で行っていただいていると捉えているところでもありますので、成果指標の上での評価と、文章による成果というところもお示ししながら評価をしているところでして、本日の資料は抜粋版ということで、個別の政策と施策の部分については、210ページを超える評価報告書全編の配布はしていなかったところですが、現状としてはそのように捉えているところでございます。

(岩間総合政策部長)

今ご説明したとおりですが、まずコミュニティ会議の運営につきまして、日々ご尽力いただいておりますことに改めて感謝を申し上げたいと思います。今回のグラフでお示しした評価といたしましては、全体を通してということではなく、令和3年度の実績をもっての評価ということです。グラフの説明のところでも十分ご説明できなかったことをお詫び申し上げたいと思います。グラフについては、令和3年度を切り取っているということでご理解をいただききたいと思います。そして、今回お示ししておりませんが個別の政策、施策では、平成26年度から令和3年度までの全体を通しての評価をさせていただいておりますので、そのことについては大変申し訳ございませんが、後ほどホームページ等で内容をご確認いただければありがたいと思います。よろしく願いいたします。

(八重樫康治委員)

わかりました。ただ令和3年度以降にコロナということで、やはりいろんな地域活動等にももの凄い影響を与えて、今に至るわけですが、総合計画のこのような評価をする際には、令和3年度をどのように評価するかという形で出てくるのかなと思います。

先般、市との協議の場がワークショップのような形で開催をしていただいたのですが、その時に思いましたのは、それぞれのコミュニティ会議が努力をしているが、共通の問題点があったわけです。例えば、若い人が地域活動に参加しないということ。やはり地域づくりは、年寄りだけが参加しても上手いこといかないし、人づくりにも繋がっていかない。これから若い人たちをどのように引込んでいくかについては、非常に大きい課題だと思います。総合計画の評価とは繋がらないかもしれませんが、将来的にそういう総合計画の中で、花巻市として位置付けする際には、その辺をコミュニティ会議のそれぞれの努力ということに任せるってことじゃなくて、全体の課題として大きく市の施策として含めていただき、そして具体的な活動に繋がるような形での提示の仕方、そういう形で政策を掲げていただいた方がいいかと感じましたので述べさせていただきました。

(岩間総合政策部長)

ご意見ありがとうございます。先ほど申し上げました、このページ以降の個別の政策、施策のところでも、今後の取組の方向性について言及をさせていただいておりますが、その部分については今委員からご指摘があったような課題について、解決を目指していく必要性の記述がございまして、今後アクションプラン等の中において、具体的にどのような取組をしていくかというようなことが盛り込まれるものと考えております。そちらの方につきましても様々ご意見をいただければ、特に担当部署において検討させていただくことになろうかと思っておりますので、是非、地域振興部地域づくり課、又は総合支所地域振興課の方にも様々ご意見を寄せていただければ、そこから市全体としての取組等につながるものと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

(菅原教雄委員)

総括についてすごく手がかかったと思うのですが、令和6年度からの8年間の計画づくりをする時に、いわゆる今回提示いただきました評価ということで出ていますが、評価するときに、何パーセント増えたとか減ったとかというための指標が必要だと思うのですが、それが今日ホームページに載る中身にそれがあのかな。ひとつひとつの項目の中に、例えば件数や回数等で評価するのだと思いますが、その評価指標っていうのも一緒に、設定されているのかお伺いしたいです。

(富澤総合政策部秘書政策課長兼総合計画策定室長)

ありがとうございます。各政策・施策ごとに成果指標として、目標値を設定しております。例えば1つの施策に2つ、3つの指標を持つ施策もあり、あとは、先程評価対象外というのが政策・施策の中でありましたが、こちらは主に行政経営部門のものでございまして、そちらの方には一部指標が測れないところがあります。ちなみに、先程の現計画の施策の中に、地域づくりの分野の中の、地域づくりへの参加促進という施策がありますが、その成果指標は3つございます。1つは振興センターの利用人数。もう1つは、市民1人当たり振興センター利用回数、あとは、国・県・市の制度を活用した移住者数という、この3つの指標を持っていて、それぞれの政策施策には、それぞれの指標があるということでございます。

(佐賀博委員)

そもそもこの会議に参加したのが2年前ということで、内容を深く理解しないということもありますが、内部評価ということで冒頭にご説明いただきましたが、その評価について、例えば見直しだったりとか、妥当性の確認というのは行われているのでしょうか。

(富澤総合政策部秘書政策課長兼総合計画策定室長)

現在年度末でございますけれども、例えば令和4年度に行った事業について、翌年度に入って令和5年度に入りましたならば、予算を伴う伴わない事業もありますが、それをひとつひとつ内部で評価していき、その集合体が施策であり、その施策が積み重なって政策となります。

基本的には事務事業評価をして、その事務事業が構成する施策の評価まではまず内部で行います。そして、その評価が妥当なのかということを外務委員による行政評価委員会という組織で評価していただくこととなります。最終的には、次年度の予算要求の前ぐらい、時期で言いますと、11月から12月初旬あたりまでには、その評価の報告書として、市長に報告していただきます。それをもって市のホームページにて、毎年こういう結果でございましたという評価について公表しているということでございます。

(伊藤浩司委員)

人口減少は国政レベルでも市政レベルでも非常に大きな喫緊な問題なのですが、この内容を見ますとおそらくその項目がなくて、その都度、保育園や人づくりいっしょなどところどころに分けて対策を取られていると思うのですが、全ての問題は、ほとんどの問題は人口減少が原因と思われることが多いと思います。

個別に課題を分けるのではなく、やはりテーマとして人口減少対策という形で項目を作り、それに付随するものが例えば、人口減少対策として出生率上げようとしても、その指標があがるのはおそらく10年単位とかなり先です。ただその間に今デマンドタク

シーとかいろんな対策がありますけれども、もの凄く不十分で、買い物もできないとか、人が減ることによっていろんな影響が出ているわけです。その対策においても、全部これがバラバラに出ています。

そのため、人口減少において、その対策とその状況における現状の対策、そういったものがわかるように、新たに人口減少対策みたいな形で項目をつけた方が、非常に分かりやすく意気込みもわかるような気がするのですが、どのようなものでしょうか。

(富澤総合政策部秘書政策課長兼総合計画策定室長)

まさにおっしゃるとおりだと思います。2点目の次期総合計画の骨子(案)の説明をさせていただくわけですが、そちらの方では人口減少対策というのが大きなテーマということで、重点施策推進プロジェクトとして、伊藤委員がおっしゃるとおり、分野別の政策に対し、横串といたしますか、人口減少対策ということでまとめたプロジェクトを、次期総合計画の中でも持とうということで、後程説明をさせていただきます。参考までに、現総合計画では、5つの分野として、しごと、暮らし、人づくり、地域づくり、行政経営という政策別の分野がございます。それが縦軸だとすると、それを横断的に取り組むべきものということで、4つの横串で考えてございまして、1つ目は人口減少対策、2つ目に市街地の再生、3つ目に交流人口の拡大、4つ目に防災力の強化ということで、今伊藤委員がおっしゃったような視点というのは、現計画においても持っていることをご紹介させていただきたいと思います。

(伊藤浩司委員)

人口減少対策は、おそらく出生率の増加とか、流入の増加、流出の減少を狙っていると思うのですが、人口を増やすだけではなく、現状、人口減少で不利益がある人たちが結構いますので、そこのところも是非その中に入れておいていただきたいと思います。例えば、人がいないことによって商店が辞めて、買い物ができなくなっているとか、買い物しようと思っても、デマンドタクシーは1回400円で毎日使おうと思っても使えないので、そこをどうするかとか。やはりそういった状況の改善もその項目の中に入れていただければありがたいなと思っておりますのでよろしく願いいたします。

(菅原康之会長)

次に総合計画の長期ビジョンの骨子の構成案についてのご説明があるところでございますが、その他に質問等ございませんでしょうか。

(高橋公男委員)

この計画の評価のまとめ大変ご苦労さまでございました。個々にいろいろ見ますと、それぞれ達成率が増減しているわけですが、この総合計画の評価に当たり、相対的にこの計画に対してはどうであったかという各論は聞いてわかったわけですが、市として、この総合計画は全体的にどうであったかという評価としての捉え方はどう思っておりますか。

(富澤総合政策部秘書政策課長兼総合計画策定室長)

おおむね良好といたしますか、できているという判断でございます。本日お配りした資料の評価の抜粋版で、5ページの21の政策の中の評価対象としている19政策のA・B・C評価で、こちらの方を合わせていただくと、Cは各政策で設定した成果表のうち半数以上の達成状況が達成率90%以上というような評価でございますから、こちらの

A・B・Cを合わせるとこのような成果ということで、おおむね達成できているのではないかという評価でございます。

(高橋公男委員)

要は、この計画を当初策定した時にいろいろな議論を踏まえて策定したと思っておりますが、その成果が今ここに来てどうであったかという評価なわけですし、相対的に今の室長さんのお答えでは、相対的に達成したのではないかということでしたが、その間、この事業を達成するために、色々と取り組まれた役所の方々もちろんではございますが、市民各位の努力がそこにあったのではないかなと思っております。やはりこの計画を作った場合には、この形だけではなく、それに肉付けをしていき、それが全体的に成果としてこの現状に現れ、それが市民あるいは地域住民の生活の向上に繋がっていくのだという、大きなそのラインでこの総合計画を捉えていただいて、単なる数字合わせということにはしないで、具体的なその肉付けのある総合計画にこの評価を踏まえて、来年度総合計画に反映させていただきたいと思っております。今回のこの評価の結果については、私も大変頑張っていたなと思っております。

(菅原康之会長)

その他ございますか。なければ次の(2)の方に移らせていただきたいと思いますけれどもよろしいでしょうか。それでは、(2)第2次花巻市まちづくり総合計画長期ビジョンの骨子(案)について、総合政策部から説明をお願いします。

(総合政策部から「(2)第2次花巻市まちづくり総合計画長期ビジョンの骨子(案)について」説明)

○菅原康之会長

2点目の長期ビジョンの骨子(案)について、ご説明いただいたところでございますけれども。委員の皆様方から質問、ご意見がございましたならば、お願いしたいと思います。

(伊藤浩司委員)

先ほどの内容と関連して、第6章のところに、重点として入っていると思っておりますが、これはあくまでも人口減少対策であり、そもそも、人口を増やすにはどうすればいいかという部分だと思いますが、先ほど、私後段の方に言いましたが、切り口の問題ですが、人口減少対策と同時に、もうひとつ人口減少による問題点を洗い出してやった方が非常にわかりやすくなると思っておりますので、今からは難しいかもしれないのですが、何らかの形で、そのところを汲み取ってもらえばありがたいなと思っておりますよろしく申し上げます。

(富澤総合政策部秘書政策課長兼総合計画策定室長)

ご意見を参考にさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

(藤舘茂委員)

今の話に続きますが、私もこの重点施策の花巻で暮らそうプロジェクト、これ大変素晴らしいなと、大いにこう期待している部分でございますが、やはり花巻に住みたい、住み続けたい、更に言えば一度花巻から出たけれど、いつかはまた花巻に戻ってきたい

というまちづくりは凄く大事なかなと思うのですが、そして、同じく令和5年度の市長さんの施政方針の中にも、そういったようなお話があって、花巻に住みたいと感じられるような活力に満ちたまちづくりという一文がございましたが、そのためにもこのプロジェクトをより有効に、これから進めていくためにも、それこそ様々なワークショップ、大変有効であるなどと思って、私も好地の方も参加させていただいておりましたし、先週もそうでしたが、やはり年齢に関係なく出てくるのが、商店街の活性化や空き店舗の問題、駅前がどうしても寂しいということであったりするわけですが、その際に、先程の評価にも繋がりますが、それを解消するためには、先程はなかなか商店街の方が進まない状況にあるという評価でしたけれども、何故それが進まない、その原因は、その原因を解消するためには、例えば市として地域としてどう取り組んでいけばいいのかみたいな、そういった課題解決に対しての具体的なものが、こういったプロジェクトの中にも出てくると大変ありがたいなと思います。

先ほど市民意識アンケートの回収率が34.4%で、3割の回収率が高いか低いかわからない、部分もあろうかなと思うのですが、もしかすればこういったプロジェクトによって、益々市民の皆さんの意識が高まって、こういったアンケートをしたときには回収率がもう6割7割になる。そういう姿こそ活性化に向かっていく姿なのかなと思いますので、是非ともこのプロジェクトをよろしく願いしたいなと思います。

(富澤総合政策部秘書政策課長兼総合計画策定室長)

そのとおりだと思います。例えば、事前にお送りしている資料のワークショップの若者部門の2回目が、戻ってきたい、住み続けたいというテーマ。一度は進学や就職を機会に花巻から出ざるを得ないとか出てしまうこともあるのですが、いずれは戻ってきたいまちってどんなまちっていうことを、高校生から22歳まで本当に真剣にワークショップで議論していただきました。我々も見ていて、何か誇らしいなというか、非常に勇気づけられたという感覚でございます。現段階は、総合計画の長期ビジョンということで、具体的にこのように取り組んでまいりましょうというようなところが見えにくいと思いますが、実際に何を実行していくのかという、前期・後期のアクションプランを4年ごとに作っていくのですけれども、そちらが見えてくると、行政ではこういうことやっていくんだとか、場合によっては地域ではこういうようなことを取り組んでいくんだなっていうようなところが見えてくるのかと思います。そちらの方に対しましても、先程部長が申し上げましたが、総合支所や地域づくり課にそういったご意見等を寄せいただければ、次期総合計画に可能であれば反映させてまいりたいと思ってございますので、引き続きよろしく願いいたします。

(鎌田愛子委員)

資料の中で、ワークショップの部分ですごく、感動したというか面白いものだと思うので、大人の人の考えと若い方の考えも大体似ているし、こんなに若い人がいろいろ考えて貰っているのかと少し感動しました。それで、今までの総合計画の中では、地区に小さな市役所構想でコミュニティ会議が発足されて、各地域で地域のいろんな問題点をどんどんまとまってやっていきたいと思いますみたいな感じで進めており、最初は手探りでやってきましたが、凄く楽しかったです。いろいろ皆さんと交流できる場ができたことがこのコミュニティ会議は、すごく私にとってはよかったなと思っております。それで、今度第2次総合計画の中には、多分このコミュニティでやったところが、みんな内容的には入っているんですけども、全部こう分散されるわけで、この若い方のワークショップの後半の内容を見ても、まず地区の公民館から始まってコミュニティ会議(振興セン

ター)の方まで行くそのプロセスがすごく大事じゃないのかなってすごく最近思います。これをもう少し、次の第2次の時には、自分たちも、職員の方も大変ですけれども、自分たちもやっぱりコミュニティをいろいろ頑張ってやっていかなきゃいけないなってこれを見て思いましたし、それぞれにできることからやっていって、花巻を盛り上げていただけたらなと思いました。

これからまた新しい施策になると思うのですが、ぜひそのことを汲んでいただいて、より良い花巻にしていきたいなと思います。以上です。

(富澤総合政策部秘書政策課長兼総合計画策定室長)

ありがとうございます。非常に心強いご発言でございます。次期総合計画の方でも6つの分野の中に、やはり地域づくりという位置付けもしてございますし、先ほども申し上げているのは、現在は長期ビジョンという、将来都市像とかを掲げるような、8年後こうありたいというような計画でございますので、その次のどういったことを具体的に実行していくかというのがアクションプランというもの。この長期ビジョンを策定した後で作っていくことでございますので、そちらの方に際しましても、先ほどと同様に、ご意見等頂けたらと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

(八重樫康治委員)

今は長期ビジョンのお話なので、個別の中身はなかなか明文化できないという要素もあるかと思えます。ただこれに基づいて前期後期の実施計画が作られると思うので、あえてお話ししたいと思います。やはり我々の生活を支えるのは農業や商業という、そういう産業の部分も大きいと思うのですが、長期計画が進む中でも、農業なんかは特に高齢化が進んで担い手がほとんどいない地域も出てきております。そういうのを市の中でどういうふうに位置付けしていくのかということも実施計画等を詰めてく際には、何らかの市としての方向性を示していただきたいなと思うわけです。最近ワークショップの手法が非常に随分多くなっているという感じがいたしますけれども、不特定多数の人間、あるいは地域づくりとかの組織の人を集めてワークショップをやっても、いろんな立場の人がいて、思いつくまま話して積み上げていくという形になるわけですが、そういう方法を、本当に政策を練り上げるときにそれでいいのかというふうな、私疑問を最近強く持つのですが、例えば、農業に従事している、農業関係の組織を担当している人間が集まって議論する機会はないのではないかなと。商業でも同じかもしれません、あるいは農協とか、あるいは商工会議所だというそういう上部組織はあるわけですが、実際は個別の人達が集まって話し合う場がないような気がする。特に産業の分野、あるいは、ここで子ども・子育て、あるいは暮らしのプロジェクトが出てきていますが、本当は個別のところでもそのような形で、プロジェクトまでいかなくても、何かそういう議論の場をあえて市の方で関係者とやっていただければ、もう少し具体的な政策に繋がっていくのではないかなという気がするので、ご検討いただければと思います。

(岩間総合政策部長)

ご意見ありがとうございます。今回の長期ビジョンの策定にあたりまして、例えば今お話がありましたように、農協さんですとか商工会議所さんですとか、そういうところとの意見交換は、ワークショップという形ではなく、懇談させていただいたところですが、そうではなくて市が農業者さんと直接の話し合いや、中小企業の経営者の方々と直接話し合うというような場がどれだけ持てるかということになりますと、なかなか難しいのかなというのは実感としてはございますが、担当部署とそのようなご意見があっ

たことを共有させていただいて、可能なことが何かあるのかという部分について、検討させていただきたいと思います。ご意見ありがとうございました。

(大竹佐久子委員)

今の八重樫委員の内容にちょっと絡むかもしれませんが、ワークショップをいろんな形でやって、これはこれで素晴らしいなと思いますが、現実的に例えば若い方が、地域で何かをしたいということになっても、それを突き詰めて最終的なところまでいかないってというのが、今までの現実ではないかなと思う。ですから、ある意味、ワークショップで非常にいい意見が出た場合は、それを絞った上で、ひとつのプロジェクトにしていくっていう方法もありではないかなと思います。例えば、私どものコミュニティで防災の研修会を、市の方にいらしていただいてしたのですが、そのあとに第2次として、地域の区長さんや住民の方、消防の方を交えて、新たな見直しをしようかっていうことになったら、非常に地域を知っているだけにいろんな意見が出て、ひとつの防災の地図ができました。それを防災危機管理課の方に提案をして、ここは危ないところですよという地域の住民の声が届いて、それが地図になるという形を皆さんがすごく喜んで、自分たちがやったことが役に立ったと取ってくれて、それからそれぞれの分科会が張り切って主体性をもってきたってというような状況になりました。ですから、ワークショップでいろんなことをやるのは構わないのですが、それがどういう形で集約するか、それから支援が必要な場合もあるでしょうから、そういった懐の広いところも、どこかに入れていただきたいなと思います。

(岩間総合政策部長)

ご意見ありがとうございました。防災も私どもの部の担当でございまして、ご協力いただいたこと大変感謝申し上げます。若い方々の活動を実際に支援していくということにつきましては、今回若者のワークショップを実施させていただきましたが、若者のワークショップ、一般の方々のワークショップ、いずれもそこで出た意見については、各部署で共有をさせていただいております。その意見について、今後の計画策定の中でどのように反映させていけるか、反映していくべきものは何かということについて、今検討している状況でございます。内容について、実施可能なものについては、今後おそらくアクションプラン等で実現させていく形になると思います。

また、もうひとつ、今のご提案の中でありました、若者たちが何かやりたいというときに、何処に相談すればいいのかということ、何処に繋がることによってその実現性が図られるのかということも明確にしていくことも、考え方としては持たなければならぬだろうと今のご指摘を受けて思いましたので、そういう部分についても検討させていただければと思います。ありがとうございました。

(高橋公男委員)

今度の総合計画は、市長の任期によるということで、4年4年で8年ということですが、いろんな事業を実施する場合に、総合計画は総合計画で、皆さんのワークショップ等々、たくさんの方の市民のご意見を拝聴して、これを反映するという形の中でやっているわけですが、実際それに基づいて事業着手した場合に、大きな事業等々になりますと、どうしても判断は市民の方に声を聞くという機会が多くなるわけでございます。しかし、それは大変大切なことでもありますけれども、こうやって新聞を見ておられますとひとつの大きな事業をやる場合に、期間を長くしますと色々な意見が出てくるわけです。従っ

て、その後の事業をやる場合でも、全ての方の意見全体の網羅をしてからということも必要ではあると思いますが、やはり執行者の判断で、ある時は意見をもう聞いたので自分の判断でこの事業を展開していくという方向も必要なのではないかなと思っております。いろいろ新聞紙上を見ておりますと、市民の意見を聞いてと言っているわけですが、様々な意見が出ていますので、結果的にどれをやる、どの方法でやればいいのかという判断が、執行者の判断が迷っているのではないかなと。従って、最終的な判断は、やはり決断をするときは決断をするやり方でないと、この4年4年という期間が、更に事業が持ち越しになるということが考えられますので、この総合計画の担当部署でやるべき内容ではないと思いますけれども、各部署のところで事業を執行する場合には、その計画に基づいて、実施する時において判断を適切な時期に出して執行するというふうに進めてもらいたいなと思っております。結論を出さないでいくとますます住民の声が多様な面に広がってしまいますので、いろんな面の繋がりが、いろんな方向性を向いていくということもありますから、そこはひとつ執行する場合に配慮していただきたいというふうに思っております。

(岩間総合政策部長)

難しいご意見でございますけれども、そのようなご意見を賜ったということを内部で共有をさせていただきたいと思っております。また、市といたしましては、やはり特に大きい事業等につきましては、ある程度一定の市民の理解を得た上で進めていくということが必要だという責務もございまして、今いただいた意見はどうバランスを取っていくのかというご意見だと思っておりますので持ち帰り内部で共有させていただきたいというふうに思っております。

(那須千賀委員)

今日は女性団体の方の代表ということで参加させていただきました。私たちの婦人消防協力隊も、50年の歴史を経たわけですが、なかなか役員を選出に困っています。婦人消防協力隊そのものの団体のあり方委員会等を設けて、1年かけて幹部以上で協議をしてもらっています。一番はやはり先程伊藤さんがおっしゃったように、少子高齢で役員のなり手がなくて、なかなか難しくなっているし、参加する皆さんの意識が本当に変わっていて、今まで普通に参加を呼びかけていたことに対して、何故参加しなければいけないのかと言われ、目的をはっきり説明できないと、参加を皆さんに促せないような状況になっています。多分コミュニティについても、参加される方は参加しているのですが、参加しない人たちをどうやって組み込んでいくのか、総会の時期ですが、各自治会でも委任状で終わっている。本当にこの地域力が落ちてきていることを改めて感じています。行政だけではなくて、私たちもどうにかしてこの足元の自治会から盛り上げていきたいなと思っています。

(冨澤総合政策部秘書政策課長兼総合計画策定室長)

ありがとうございます。そのとおり、お願いしなければならないこともあると思っております。

引き続きよろしく願いいたしたいと思っております。

(菅原康之会長)

他にございますか。

様々ご質問、ご意見が出たところでございますが、今日は総合計画の策定状況について

て、ご説明ご報告いただいたわけですが、今後のスケジュールにつきまして、再確認の意味で、新年度、5年度に入ってからの流れについてですね、若干当局の方からご説明をいただきたいと思います。

(村田総合計画策定室次長が今後のスケジュールを説明)

(菅原康之会長)

今スケジュールについてご説明いただきましたけれども何か委員の皆様方からございますか。

(委員から質問意見なし)

それでは、今日2つについて説明・報告いただいたわけですが、全ての審議を終了したいと思いますがいかがでしょうか。

(委員から発言なし)

それではここで審議を終了したいと思います。総合政策部の皆様には退席をいただきます。大変ご苦労さまでした。

(総合政策部職員退席)

4 その他

(菅原康之会長)

次第4、その他ですが、市から道の駅「石鳥谷」の施設の再編の進捗状況について、報告したい旨の申し出がありました。

(菅原石鳥谷総合支所長)

現在、道の駅「石鳥谷」の再編工事の方を進めておりまして、工事の方は順調に進んでおり、市の方の工事、国の方の工事を進めておりまして、令和5年の7月の完成を予定してございまして、現在のところ7月15日に道の駅「石鳥谷」開業30周年とリニューアルオープンの式典を開催したいということで、国の方と調整を進めているという状況です。国の方の工事ですが、トイレ休憩施設についてはもう既に完成し供用開始しているところですが、駐車場の方につきましては、現在まだ拡張工事をやっている最中でして、舗装の方がまだ全部仕上がっていない状況で、舗装が6月頃までかかる国の方から聞いており、現在、路盤の1層の部分については終わったものの、最後の仕上げの部分については現在の駐車場をすべて封鎖して一斉に全部かけていくという形になっておりまして、その間の駐車場は、アイスアリーナの駐車場を臨時的駐車場として使う方向で国と市で協議をしながら進めているところでございますので、4～6月の間は駐車場少し狭くなることとなりますので、ご理解の方いただければと思います。市の方の工事の関係につきましても、国の駐車場との接合部分等ございまして、市の方でも令和4年度の工事を繰越しまして、大体5月末ぐらいから6月上旬にかけて工事の方進めていく予定にしておりますので、市の方の駐車場と南部杜氏伝承館、りんどう亭、酒匠館の間の広場工事を行っておりますので、こちらの舗装まで全部仕上げるというよ

うな予定にしているところがございます。基本的には6月ぐらいまでは工事がかかるというような状況になりますが、オープンについては7月を目指して、国及び市の工事の方を進めているという状況になっております。

開業予定につきましては、道の駅が平成5年の7月15日に開業したということがありますので、市でも令和5年7月15日土曜日に、オープニングの式典をやって盛大な30周年をやっていきたいということで関係機関の方と連携を進めているところがございます。

貴重なお時間をいただきまして、今の状況についてご説明をさせていただきました。よろしく願いいたします。

(菅原康之会長)

委員の皆様方から今の報告に関して何かございませんか。

(委員から質問・意見なし)

それでは、進行を事務局にお返ししたいと思います。

(佐藤地域振興課長)

以上をもちまして、令和4年度花巻市石鳥谷地域協議会第2回会議を閉会いたします。